

## 最近の調剤医療費（電算処理分）の動向 令和7年度8月号

### ○ 概要

- (1) 令和7年度8月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は6,921億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+1.0%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は10,087円（伸び率+3.7%）であった。（→P.1,2）  
 調剤医療費の内訳は、技術料が1,841億円（伸び率+0.5%）、薬剤料が5,066億円（伸び率+1.2%）、薬剤料のうち、後発医薬品が906億円（伸び率▲0.7%）であった。（→P.4,5）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,673円（伸び率+1.9%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.80種類（伸び率▲0.1%）、28.8日（伸び率+2.6%）、70円（伸び率▲0.6%）であった。（→P.8,9）
- (3) 内服薬の薬剤料3,892億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）▲29億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39その他の代謝性医薬品の745億円（伸び幅▲3億円）で、伸び幅が最も高かったのは42腫瘍用薬の+28億円（総額548億円）であった。（→P.13～19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	3,892 億円 (▲29 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(745 億円)	21 循環器官用薬 (554 億円)	42 腫瘍用薬 (548 億円)
0歳以上	14.5 億円	44 アレルギー用薬 (3.6 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.6 億円)	61 抗生物質製剤 (2.0 億円)
5歳未満	(▲1.8 億円)			
5歳以上	93.6 億円	44 アレルギー用薬 (28.7 億円)	11 中枢神経系用薬 (28.1 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(9.6 億円)
15歳未満	(▲0.7 億円)			
15歳以上	1,472 億円	39 その他の代謝性 医薬品(284 億円)	11 中枢神経系用薬 (277 億円)	42 腫瘍用薬 (181 億円)
65歳未満	(+7 億円)			
65歳以上	768 億円	39 その他の代謝性 医薬品(174 億円)	42 腫瘍用薬 (142 億円)	21 循環器官用薬 (121 億円)
75歳未満	(▲41 億円)			
75歳以上	1,544 億円 (+7 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(275 億円)	21 循環器官用薬 (265 億円)	42 腫瘍用薬 (221 億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では10,087円（伸び率+3.7%）で、最も高かったのは福井県（12,063円（伸び率+9.7%））、最も低かったのは佐賀県（8,821円（伸び率+4.3%））であった。  
 また、伸び率が最も高かったのは福井県（伸び率+9.7%）、最も低かったのは福島県（伸び率+1.3%）であった。（→P.31～32）

## «後発医薬品の使用状況について»

### 【後発医薬品割合】(→P.39)

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） <sup>注1)</sup>	91.3 %	+4.9 %
薬剤料ベース（新指標） <sup>注2)</sup>	78.3 %	+9.9 %
後発品調剤率	80.2 %	+4.9 %

注1) 【後発医薬品の数量】 / ([後発医薬品のある先発医薬品の数量] + [後発医薬品の数量]) で算出。

注2) 【後発医薬品の薬剤料】 / ([後発医薬品のある先発医薬品の薬剤料] + [後発医薬品の薬剤料]) で算出。

### 【後発医薬品 年齢階級別】(→P.40~41)

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	▲0.7 %	+12.7 % (10歳以上 15歳未満)	▲6.6 % (70歳以上 75歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース、新指標）	78.3 %	87.5 % (100歳以上)	62.5 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	91.3 %	93.8 % (100歳以上)	89.7 % (15歳以上 20歳未満)

### 【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】(→P.46~50)

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	782 億円 (+5 億円)	21 循環器官用薬 (242 億円)	11 中枢神経系用薬 (143 億円)	23 消化器官用薬 (88 億円)
0歳以上 5歳未満	5.7 億円 (+0.1 億円)	44 アレルギー用薬 (2.9 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.9 億円)	62 化学療法剤 (0.3 億円)
5歳以上 15歳未満	14.1 億円 (▲0.6 億円)	44 アレルギー用薬 (8.1 億円)	11 中枢神経系用薬 (1.9 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.6 億円)
15歳以上 65歳未満	274 億円 (+1 億円)	21 循環器官用薬 (68 億円)	11 中枢神経系用薬 (68 億円)	44 アレルギー用薬 (25 億円)
65歳以上 75歳未満	154 億円 (▲4 億円)	21 循環器官用薬 (58 億円)	11 中枢神経系用薬 (20 億円)	23 消化器官用薬 (18 億円)
75歳以上	334 億円 (+9 億円)	21 循環器官用薬 (115 億円)	11 中枢神経系用薬 (53 億円)	23 消化器官用薬 (45 億円)

### 【後発医薬品 都道府県別】(→P.55~59)

	全国	最高	最低
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料	1,320 円	1,715 円(北海道)	1,130 円(佐賀県)
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+1.9%	+5.5 %(青森県)	▲1.6 %(鹿児島県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	91.3 %	94.6 %(沖縄県)	88.9 %(東京都)
新指標による後発医薬品割合（薬剤料ベース）	78.3 %	84.0 %(鹿児島県)	73.4 %(徳島県)
後発医薬品調剤率	80.2 %	83.7 %(秋田県)	76.9 %(東京都)

## [利用上の留意点]

### 分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和7年度8月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。